

構造改革に立ち向かう製造業

主催：野村総合研究所コンサルティング事業本部 2012年10月29日 東京（丸の内北口ビル）

野村総合研究所（NRI）コンサルティング事業本部では業界向け情報媒体『NRI Knowledge Insight』を隔月で発行しており、各号の特集テーマに連動したセミナーを適宜開催している。第3回は、電機・精密・素材産業を対象に、「構造改革に立ち向かう製造業」をテーマに開催した。

キーノートスピーチとしてグループマネージャーの岸本隆正が、「日本の製造業の現状と経営課題」と題して講演した。2008年のリーマン・ショック以降、利益率が低下している日本の製造業に対して、欧米企業は2000年代にポートフォリオを大きく変革した結果、高収益を獲得している事例を紹介。日本企業が今後、世界市場で戦っていくには、差別化できるハードウェアと、システム全体を制御するソフトウェアの2つから構成される「クロスポイントバリュープロダクト」が重要であるとした。

■演題1 「製品開発力強化のための引き算改革」

続いて上級コンサルタントの赤木斉が演題1のテーマで講演した。赤木は、欧州と日本企業の開発プロセス・モノづくりの違いを説明し、日本企業の従来の強みである現場開発パワーを再強化するには、第1に顧客が求めている商品開発には「とんがり」と「割り切り」を明確にした「製品軸における引き算での商品づくり」が必要であること、第2に「つくる側（開発計画、投資）」と「売る側（販売計画）」を調整しやすくする事業単位のくくり直しが重要であり、つくる側に事業のコントロール機能を持たせる「機能軸の引き算改革」の重要性を提案した。

■演題2 「EMSを活用したモノづくり改革」

次に副主任コンサルタントの池幡諭が演題2について講演した。これまでエレクトロニクス分野を中

心に拡大してきたEMS（エレクトロニクス・マニファクチャリング・サービス）は、現在、産業機械や自動車、医療機器分野で注目されており、日本企業が今後グローバル展開を図っていくうえでEMS活用は重要な経営課題となっていると述べた。EMS活用に向けては、①EMS活用目的の多面的な評価、②コアコンピタンス（強みの源泉）の明確化、③EMS活用効率化に向けた社内体制のあり方——の3点が解決すべき課題であるとした。

■演題3 「R&D起点での新規事業開発」

最後にグループマネージャーの中川隆之と主任コンサルタントの中島崇文が演題3について講演した。既存事業の収益構造が壊れる懸念があるなか、新たな成長ドライバーとしての新規事業の企画開発が重要になっていること、その新規事業開発で陥りやすい「5つの壁」を突破する方策には、「前倒し検討」と「9つの打ち手」が有効であることを述べた。そして、未来に向けて、「何をなすべきか」「何ができるか」「事業開発当事者の思い」を明確にするとともに、全社のパワーを引き出す部門横断型検討チームによって、業際・融合テーマを発掘する方法論について説明した。

コンサルティング事業本部では、今後もさまざまな媒体を通して各業界の課題解決に関する情報を適宜発信するとともに、今回のようなセミナーを通じて、企業の方々とのディスカッションの機会を拡大する予定である。

本セミナーについてのお問い合わせは下記へ
 コンサルティング事業本部グローバル事業企画室
 松林一裕 電話：03-5533-2266
 メール：knowledge-insight@nri.co.jp